

岐阜県多治見市の
テクノパーク(工業用地) 位置図



1 多治見高田テクノパーク

第1期
分譲面積 約20ha
有効面積 約11.5ha

第2期
分譲面積 約5ha
有効面積 約2.5ha

〈進出企業〉
水谷産業(株)

〈施設名称〉
多治見工場
半導体製造装置用セラミックスの製造

分譲面積 約20ha

2 多治見長瀬テクノパーク

〈進出企業〉
日本ガイシ(株)

〈施設名称〉
NGKセラミックデバイス(株) 多治見工場
半導体製造装置用セラミックスの製造

分譲面積 約20ha

3 多治見山吹テクノパーク

〈進出企業〉
トヨタ自動車(株)

〈施設名称〉
多治見サービスセンター
車両の修理技術の向上・育成及び研究・開発拠点

分譲面積 約19ha

4 旭ヶ丘テクノパーク

〈進出企業〉
アマゾンジャパン合同会社
日本通運(株)

〈施設名称〉
多治見フルフィルメントセンター
アマゾンジャパンの物流拠点

分譲面積 約6ha

5 フロンティア・リサーチパーク

〈進出企業〉
(株)サンアイ岡本
水谷産業(株)
三光化成(株)
中野倉庫運輸(株)

分譲面積 約3.3ha

民間開発支援事業

〈進出企業〉
トヨタ紡織(株)

〈施設名称〉
多治見技術センター
テストコースを備えた研究開発拠点

分譲面積 約36ha

上原テクノパーク

〈進出企業〉
明和工業(株)

分譲面積 約4ha

企業誘致の沿革					
平成 16 年	9 月	研究所用地「フロンティア・リサーチパーク」の分譲対象を拡大	平成 24 年	6 月	株式会社セントラル・バッテリー・マテリアルズと企業立地協定を締結
平成 17 年	12 月	水谷産業株式会社と土地売買契約を締結	11 月	アマゾンジャパン・ロジスティクス株式会社、操業開始	
平成 18 年	4 月	三光化成株式会社と土地売買契約を締結	平成 25 年	9 月	トヨタ自動車株式会社、操業開始
平成 19 年	8 月	岐阜県内の市町村で初の「企業誘致課」を設置（当時）	11 月	第 4 弾企業用地「多治見長瀬テクノパーク」を決定	
	12 月	第 1 弾工業用地「旭ヶ丘テクノパーク」を決定	平成 26 年	4 月	トヨタ紡織株式会社、操業開始
平成 20 年	4 月	第 2 弾工業用地「上原テクノパーク」を決定	平成 27 年	3 月	株式会社サンアイ岡本と土地売買契約を締結
	5 月	明和工業株式会社と土地売買契約を締結	平成 30 年	3 月	日本ガイシ株式会社と企業立地協定を締結
	7 月	水谷産業株式会社と土地売買契約を締結（増設分）	3 月	第 5 弾工業用地「多治見高田テクノパーク」を決定	
	9 月	第 3 弾企業用地「多治見山吹テクノパーク」を決定	3 月	多治見高田テクノパーク開発事業及びリニア中央新幹線建設事業の推進に向けて、東海旅客鉄道株式会社、多治見市土地開発公社、多治見市の三社で協定を締結	
平成 23 年	4 月	トヨタ自動車株式会社と企業立地協定を締結	令和元年	6 月	第 6 弾工業用地「第 2 期多治見高田テクノパーク」を決定
	8 月	トヨタ紡織株式会社と企業立地協定を締結	7 月	中野倉庫運輸株式会社と企業立地協定を締結	
	11 月	日本通運株式会社と企業立地協定を締結	令和 4 年	4 月	水谷産業株式会社と企業立地協定を締結
平成 24 年	3 月	アマゾンジャパン・ロジスティクス株式会社と企業進出協定を締結	令和 5 年	2 月	三光化成株式会社と企業立地協定を締結
	6 月	関西触媒化学株式会社と企業立地協定を締結			

多治見市の企業誘致

企業進出のチカラ

多治見市は平成19年に企業進出支援の専門部署「企業誘致課」を立ち上げました。

多治見市の企業誘致事業で最も特徴的なのは「アフターフォロー」です。

市内に進出した企業と良好な関係を継続することで、雇用の創出と税収の確保に加えて、キャリア教育の推進や企業間の交流等さまざまな波及効果を生み出しています。



進出や事業拡大を支援した28企業

令和元年本社移転

(株)河地鉄工

物流運搬設備などを製造



平成24年進出

amazon

アマゾンジャパン合同会社
多治見フルフィルメントセンター

商品の出荷と入荷を管理する物流の拠点

平成26年増設

ペットライン(株)

ペットフードを製造



平成29年本社移転

(株)コパン

スポーツクラブ・スイミングスクールを運営



平成28年進出

(株)サン・プロテック

自動車の説明書(各種マニュアル)を企画、執筆、編集



平成28年進出

アベイズム(株)

自動車の各種マニュアル作成



平成28年進出

(株)テクノツリー

自動車の説明書(各種マニュアル)を執筆、編集



令和4年本店建替

東濃信用金庫

多治見に本店を構える地元密着金融機関



平成22年進出

(株)八洲

生コンクリートを製造



平成25年増設

関西触媒化学(株)

リチウムイオン電池の材料などを製造



平成25年進出

(株)セントラル・バッテリー・マテリアルズ

リチウムイオン電池の材料などを製造



平成30年進出

フルハシEPO(株)

木質リサイクル、木材チップなどを製造



平成31年進出

石黒ゴム工業(株)
石黒化成工業(株)

自動車用・生活産業用ゴム部品及び樹脂製品製造

令和5年拠点増設

水谷産業(株)

第2期多治見高田テクノパークに高田工場を建設



平成28年進出

(株)ITP

自動車の説明書・整備マニュアルなどを企画・編集



平成28年進出

(株)シイエム・シイ

自動車の説明書(各種マニュアル)を企画、執筆、編集



平成25年進出

TOYOTA

トヨタ自動車(株)
多治見サービスセンター

自動車の整備技術の研究と研修を実施

平成28年進出

(株)サンアイ岡本

アルミエクステリア建材を製造、販売



令和2年進出

中野倉庫運輸(株)

運送業及び倉庫業



平成17年進出

水谷産業(株)

自動車部品(アルミダイカスト)などを製造

平成18年進出

三光化成(株)

衛生・電子・電気機器(プラスチック)などを製造



平成29年進出

(株)シンテックホズミ

自動車の整備マニュアルを作成、整備機器を開発



平成25年進出

新日本工業(株)

水管橋などを製造



平成25年進出

(株)水谷鉄工所

自動車部品を製造



平成26年進出

トヨタ紡織(株)

多治見技術センター

自動車部品の研究・開発を実施



令和5年増設

明和工業(株)

自動車内装部品を製造



進出企業による地域貢献事業

企業による「地域貢献事業」は地域へ様々な波及効果を生み出しています。ここでは、その活動の一部を紹介します。

アマゾンジャパン合同会社
多治見フルフィルメントセンター（以下多治見FC）

地産地消

青空マーケット

採れたての新鮮な野菜を地元農家の方から、多治見 FC 従業員が直接購入できる「青空マーケット」を季節ごとに実施しています。同センター代表の荒川さんは、「地域で生産された商品を、マーケットを通して提供し、従業員や地域住民とのつながりを大切にしていきたい」と思いを語っています。



アマゾンジャパン合同会社
多治見FC代表



FCツアー& グループディスカッション

岐阜県立多治見北高等学校の生徒を対象に、アマゾン多治見 FC にて FC ツアー&グループディスカッションを実施しています。FC ツアーでは、お客様の注文を受けてから商品が発送されるまでの業務プロセスに密着し倉庫内のツアーを行います。またグループディスカッションでは、アマゾンの従業員全員がリーダーとして行動するための指針「Leadership Principles」を用いて、将来の目標設定やそれを実現する為の具体的な Action の決め方を学びます。



キャリア教育

アマゾン体験学習会

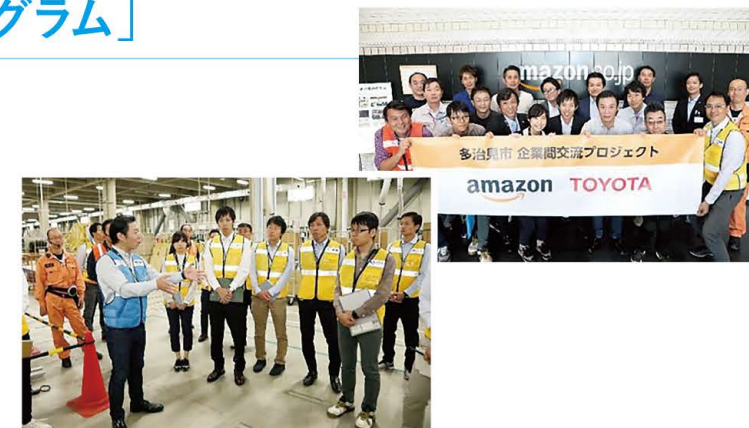
2020年より小学校でスタートしたプログラミング教育の一環として、バーチャル FC ツアーとプログラミング教室を開催しています。バーチャル FC ツアーでは、アマゾンがインターネットで注文を受けてから、どのようにして商品が届くのか、多治見 FC 内部の実際の映像を見ながら、多くの人が様々な役割の仕事をしていることを学びます。また、プログラミング教室では、アマゾンの倉庫で使用するロボット（アマゾン・ロボティクス）がプログラミングにより自動的に動くことを学び、タブレットを使って、アニメのアマゾン・ロボティクスをプログラミングで操作する体験学習を行っています。



企業間交流

Amazon、トヨタ自動車株式会社多治見サービスセンターとの「企業間交流プログラム」

地域連携の一環として、Amazon とトヨタ自動車株式会社多治見サービスセンターは、企業間交流を行っています。参加者は、カイゼンと 5S をテーマとするワークショップに参加して、お互いに安全で働きやすい職場環境をさらに向上するための意見交換を行っています。



トヨタ自動車株式会社多治見サービスセンター「小学生社会科見学」

地域に根付き、地域と共に成長する企業でありたい。との思いから「小学生社会科見学」を実施しています。自動車産業を学ぶ授業の一環として、市内の小学校（毎年1～2校）の5年生が販売店のサービスエンジニアの仕事体験して学びます。



社会科見学

市民との協働

トヨタ紡織株式会社「ボランティア清掃」

上原三号池ロード（笠原町上原三号池周遊路）は、平成26年に多治見市に進出したトヨタ紡織株式会社から頂いた寄附金を原資に整備され、地域の皆さんとトヨタ紡織株式会社の従業員が定期的にボランティア清掃を行っています。



多治見高田テクノパーク

所在地：岐阜県多治見市高田町地内

第1期多治見高田テクノパーク
分譲面積：約20ha 有効面積：約11.5ha

第2期多治見高田テクノパーク
分譲面積：約5ha 有効面積：約2.5ha



進出企業 インタビュー

水谷産業株式会社 — 令和4年 第2期多治見高田テクノパーク進出決定



代表取締役社長
山田真吾さん

Q 何をつくっている会社か

A 自動車向けを中心に、手のひらに乗る程度の大きさの自転車やガス器具、電気部品向けのアルミニウム部品を鋳造、加工しています。



Q なぜ多治見を選んだか

A 平成18年に多治見市東町のフロンティアリサーチパークに進出し、その後15年以上にわたり多治見市からのサポートを得ながら地域に根差す形でストレスなく事業拡大を続けることができました。多治見市には窯業で培ってきたものづくりの文化が定着しており、製造業への理解が深い上、高速道路網へのアクセスもよく、私共の業務内容と相性が良い。一昨年には本社も多治見市に移転し、今後多治見市民としてさらなる成長を目指したいと考えています。

Q 高田テクノパークの工場はどのようになるか

A 投下固定資産は30億円規模、将来的には200人規模の事業所となる計画です。工場内にはダイカストマシンを10台程度、各種加工機を100台程度設置予定です。自動化をキーワードに生産性向上と品質向上の二兎を追い、新技術を積極的に採用することで私共の強みである、加工法の検討から製品まで、一貫して自社で対応するサービスと付加価値の最大化を目指して、次の成長に備えます。

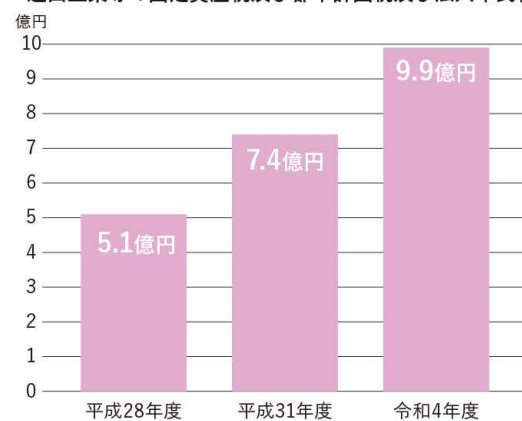
地域貢献に関するメッセージ

私共は、若い人たちを迎え、育てることで次世代につなぐことを会社方針の根幹に置いています。これは一企業の努力だけではなし得ないことも多いため、若い人たちが定着するような街づくりについて、行政に期待するとともに、私共もできる限りの協力をしたいと考えています。

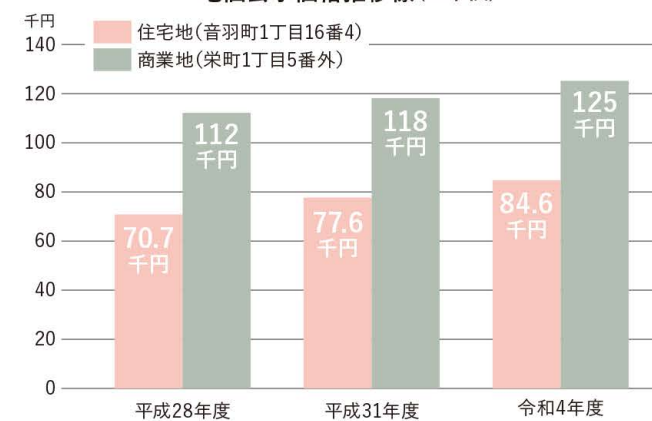
税収効果

平成24年アマゾンジャパン合同会社、平成25年トヨタ自動車株式会社、平成26年トヨタ紡織株式会社、令和元年日本ガイシ株式会社等の企業誘致の効果として、税収は拡大しています。関連企業の進出もあり、令和4年度の進出企業等（市が進出や事業拡大を支援した企業）の法人市民税、固定資産税及び都市計画税の合算は約9.9億円となっています。また、多治見市内の住宅地、商業地の地価は上昇傾向にあります。

進出企業等の固定資産税及び都市計画税及び法人市民税

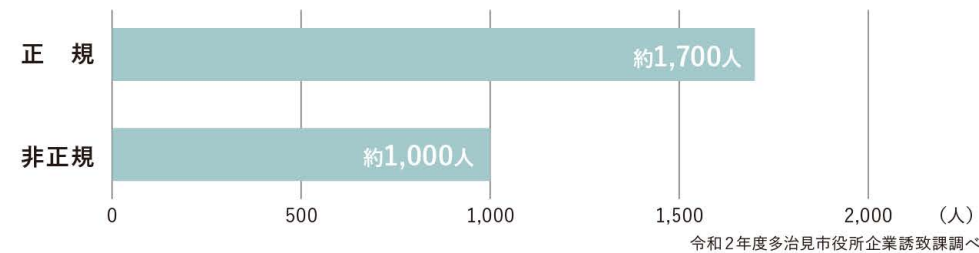


地価公示価格推移標 (㎡単価)



雇用効果

企業誘致を進めたことにより、多様で魅力的な職場が創出され、正規雇用と非正規雇用を合わせ、新たに約2,700名の雇用が生まれました。また、それに伴い昼間人口が増加し、経済波及効果も出てきています。



多治見管内の有効求人倍率は全国及び岐阜県を上回り続けています。

ハローワークによる有効求人倍率 (学卒除き、パート含む) 推移

	多治見管内			岐阜県	全国
	一般	パート	全数		
平成28年度	1.48	2.41	1.85	1.72	1.39
平成29年度	1.65	2.46	1.99	1.85	1.54
平成30年度	1.94	2.80	2.32	2.03	1.62
令和元年度	1.94	2.66	2.25	1.93	1.55
令和2年度	1.19	1.88	1.46	1.30	1.10
令和3年度	1.45	1.96	1.68	1.49	1.16
令和4年度	1.82	2.20	1.99	1.66	1.31

※多治見管内…(多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市、御嵩町)

